

# MEIJI MURA

明治村だより  
Vol.60  
2010 Summer



平成 22 年 7 月 20 日発行  
「明治村だより」第 60 号 (平成 22 年 夏)

発行 博物館明治村  
〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
電話 (0568) 67-0314  
<http://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

●表紙写真  
「東京御所写真帖」より「球戯室」と、足台つき長椅子

「明治村だより」第 61 号発行のお知らせ  
発行時期 平成 22 年 9 月中旬 (予定)  
申込方法 「明治村だより」第 61 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

館長就任記念シンポジウム  
博物館明治村の45年、歴史的建築の45年 2  
夏の催しもの 5  
明治村ニュース 6  
A La Meiji-mura 7

# 博物館明治村の45年、 歴史的建築の45年

博物館明治村館長 鈴木博之

歴史を過り、横に広がりながら、建物の持つ世界、そしてそれがどのような形で次に繋がっていくのかということを考えてみたいと思います。

明治六年にそれまで皇城とされていた江戸城西の丸御殿が焼失し、天皇は、旧紀州徳川家の中屋敷を仮居と定めお住まいになりました。その後天皇は、明治二十一年秋に竣工した後に明治宮殿と呼ばれる新宮殿に、翌年一月に移られます。その外観(写真1)をみると、非常に堂々たる和風の宮殿であることがお分かりいただけます。表御座所は総二階建て屋根の上に煙突があることから、内部には暖炉のある部屋があることが分かります。これは非常に立派な和風御殿のように見えますが、総二階建ての御殿というのはこ



明治41年(1908)の東京 皇居周辺の地図

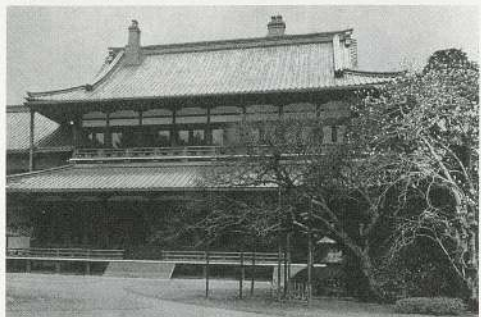


写真1 明治宮殿表宮殿(建築画報社「皇室建築」より)



写真2 明治宮殿表宮殿の内部

れまでの伝統的な御殿とは異なっており、和洋折衷の御殿だろうと推察されます。内部(写真2)は折り上げ格天井という和風の豪華な意匠が採用され、柱や長押があり、和風御殿の様式ですが、床は寄木で、家具は明らかに洋風で、非常に大きな針や装飾も洋風で、さらに非常に見事なシャンデリアや装飾鏡があります。洋風が七分、和風が三分位の和洋折衷の宮殿が明治宮殿ということがおわかりいただけると思います。

は消えても、その一部が受け継がれていく、あるいは組み込まれていく、という形で伝えられています。それが建物の面白い所だと思います。伝統というのは、紀州徳川家の中屋敷が取り壊されたからその伝統が消えたというほど単純なものではないのではないのでしょうか。

旧東宮御所(写真3)というのは大正天皇がまだ皇太子の時期に皇太子のための宮殿を建設し、同時に迎賓館としての機能も持たせようということで計画されたものです。非常に大きな前庭を備えた西洋の宮殿の背面に西洋風庭園があり、その先は紀州徳川家時代のお庭(写真4)の面影を残すところに繋がるといいます。



写真3 旧東宮御所



写真4 紀州徳川家の庭

ですが、正面から見たスタイルは十九世紀から二十世紀初頭の堂々たる宮殿のスタイルです。旧東宮御所の特徴の一つに両袖が湾曲して張り出している点(写真5)が挙げられ、バロック的なドラマチックな構成とも言われています。由縁です。

この建物を設計したのは旧東宮御所御造営局の技監片山東熊で、ウイーンの新イェ・ホーフブルク(新宮殿)という宮殿を手本にしたのではないかとされています。建物の規模は異なりますが、同じ様に湾曲した翼を張り出しています(写真6)。新イェ・ホーフブルクは旧東宮御所ができる少し前に竣工した当時のヨーロッパ最新の宮殿でした。旧東宮御所の建設を指揮した片山東熊はこの建物を視察していますから、当時最新の宮殿のスタイルを一部取り入れて造ったのだらうとい



写真5 旧東宮御所の湾曲した両袖

写真6 ノイェ・ホーフブルク(新宮殿)



写真7 旧東宮御所の背面

写真8 ルーブル宮殿

旧東宮御所は迎賓館でもあるのですが、一階が東宮のお住まいとして造られました。正面からみると、湾曲しながら腕が出て真ん中に正面の玄関、左右にそれぞれ入口があります。それを当時の図面(図1・2)で確認すると、正面玄関を入ると中央に階段があつてここから入った人はそのまま二階へ上っていきます。正面から向かって左端の入口は東宮(皇太子)の入口、右側は東宮妃の入口と計画されています。ですから正面玄関からのお客様は二階へ直接行く、つまり二階部分が迎賓館になり、一階の左(東)側の部分が皇太子、右(西)

うことは十分推測されます。また旧東宮御所の背面(写真7)は、現在美術館として有名なフランスのルーブル宮殿(写真8)のスタイルを取り入れているのではないかと思います。ルーブル宮殿の本来の正面を見ると、柱が二本ずつ束ねられて、下は閉鎖的で両脇にちよつと押さえをつけるというものです。非常にオーソドックスなルーブル宮殿、当時最新のウイーンの新宮殿というものを、色々勘案しているということが感じられます。だから古風な建築であると同時に、最新のファッションナブルな建築として造られたのではないかと思います。

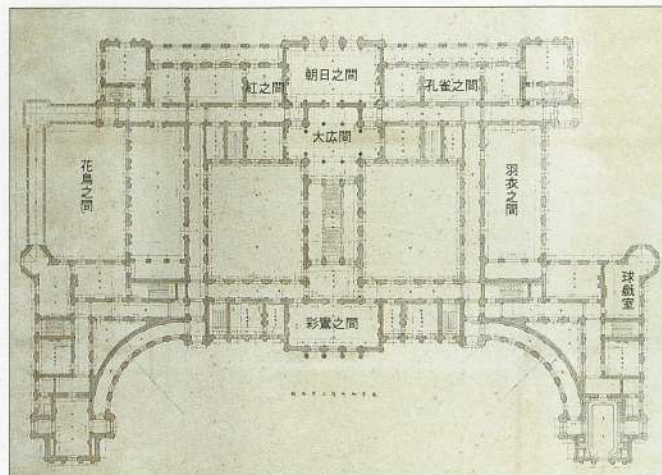


図2 旧東宮御所2階

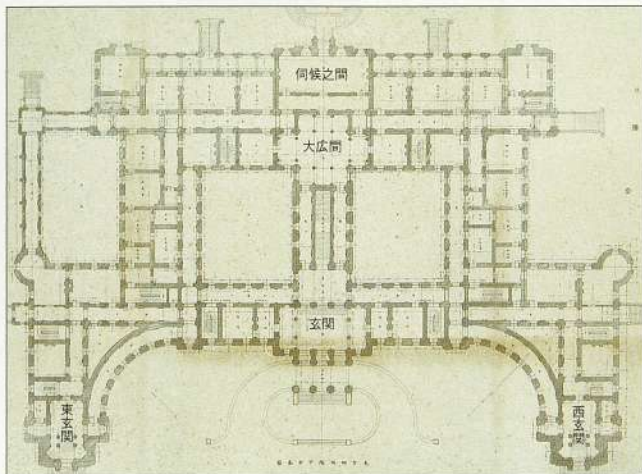


図1 旧東宮御所1階

半分が皇太子妃というように左右で使い分けをするという、現代の感覚からするとやや不思議なプランにな

平成22年4月24日、館長就任記念シンポジウムが開催されました。今回は基調講演を抄録したものを掲載させていただきました。

# 宵の明治村

期間：8月7日(土)～16日(月)

期間中・夜9時まで開村 ※荒天時は延長開村中止の場合有り  
 ・浴衣姿の女性は終日入村無料  
 (浴衣姿の男性は入村割引 ※大人200円割引)

## 「宵」の建物ガイド スペシャル

「東松家住宅」「芝川又右衛門邸」「高田小熊写真館」は、19時まで延長して建物ガイドを実施します。昼間とは違った宵の表情をお楽しみ下さい。



## ライトアップ明治村

建物と街並、京都市電などをライトアップ。村内を美しく彩ります。  
 ■場所 帝国ホテル中央玄関、内閣文庫、川崎銀行本店、隅田川新大橋、菊の世酒蔵、聖ザビエル天主堂、宇治山田郵便局、東山梨郡役所ほか

## 花火競演

■場所 帝国ホテル中央玄関前 芝生広場一帯  
 ■時間 20:30～



## 10DAYS・JAZZナイト

■場所 帝国ホテル中央玄関前 芝生広場特設ステージ  
 ■時間 19:00～、20:00～

## 「夏のよしもと呉服座公演」

■開演時間 13:30～、15:30～、18:00～、19:00～  
 (各回約30分・入替制 ※18:00～と19:00～はおまけ付き)  
 ■観劇料 500円(小学生以上)  
 ■制作 (株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー

## キャンドルエリア「灯リノ庭」

■場所 ハワイ移民集会所

## 村のあそび縁日屋台

風船つり、輪投げなどの懐かしい遊び。  
 ■場所 呉服座前



## 監獄屋台

■場所 前橋監獄雑居房

※各イベントは荒天時、中止となることがあります。悪しからずご了承ください。

## 夏の催し 7月17日(土)～8月31日(火)

### 錦絵の多色摺り体験

木版画の多色摺りを体験して  
 いただく夏休み限定企画。

■開催日 8月15日・22日・29日  
 いずれも日曜日  
 ■時間 10:00～12:00  
 13:00～15:00  
 ■会場 碧水



### 明治の夏のくらし

夏を涼しく過ごすための先人の工夫を  
 紹介します。

■場所 森鷗外・夏目漱石住宅、東松家住宅、西園寺公望別邸「坐漁荘」、幸田露伴住宅「蝸牛庵」、本郷喜之床ほか



### 盛夏の味覚

村内の飲食店舗では夏の涼しいメニューが勢ぞろい!

#### 村の夏「喜」氷フェア

■場所 汐留バー・尾張茶寮・小倉ドックの店・食道楽のコロツケー店・食道楽のカフェ  
 夏季限定メニュー  
 「冷やしとろろそば」など夏季限定メニューをご用意しています。

#### 天然水足浴(冷水)「半田東湯」

夏は尾張富士の天然水をそのままに、ひんやり冷たい足浴でリラックスして下さい。100円(貸タオル付)

#### 村の団扇プレゼント(和雑貨「楽」) ※限定1,000本

「和雑貨 楽」にて1,000円以上お買い上げの方にもれなく、明治村オリジナル団扇をプレゼントします。

#### 「学生俵屋」人力車無料試乗会

関東学生サークル団体「学生俵屋(がくせいくるまや)」による無料試乗会を開催。  
 ■開催日 8月16日(月) ■場所 食道楽のカフェ横芝生広場  
 ■時間 13:00～17:00



※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

<http://www.meijimura.com> または 0568-67-0314



写真10 羽衣之間



写真9 花鳥之間



写真11 朝日之間



写真12 屋根の装飾

つています。二階には食堂(花鳥之間(写真9))であつたり、ボールルーム(舞踏室・羽衣之間(写真10))であつたり、謁見の間(第一客室・朝日之間(写真11))というような大きな部屋が配置されている、そういう複合建築が旧東宮御所だったということがわかります。この建物は非常に豪華で十九世紀末から二十世紀初頭のヨーロッパ風のデザインが各所に見られます。しかしながら不思議なのは屋根に載っている星の付いた地球儀みたいなもので、アメリカの国旗を地球儀に巻いたみたいに見える不思議なデザインが見られます(写真12)。

正面入口から入って二階へ上がる階段は見事な階段ですけれども左右がおさえてあって、あ

まりオープンにできている階段ではありません(写真13)。これは一階の左右が東宮と東宮妃の宮殿であつて、お客様はまず二階へ上るためオープンな大階段にはなっていないのだらうと思います。デザインと仕上げは当時の日本としては最高級のものだったと思います。シャンデリアもバカラの特製のガラスを使っています。食堂で有名なのは非常に大きな七宝の装飾画、装飾パネルが貼られている所で、これは溝川惣助という非常に有名な当時の七宝作家が作ったものです。天井にはキャンバスを貼った絵が描かれています。ここは木目が表されたインテリアになっています。

迎賓館のインテリアというのは非常に見事なもので、それは明らかに皇室のデザインという意識と、それから明治宮殿が一方にあり、東宮のために迎賓館を造る、東宮御所を造るという意識があつたためだと思います。

明治宮殿は残念ながら第二次世界大戦末期に焼失してしまふわけです。しかしその特徴といふのはどこかにバトンタッチされている部分があるのではないかと、そうだとすると歴史的な建物の息吹といま



写真13 中央大階段

今、明治村の中で開かれている旧東宮御所の宮廷家具の展覧会\*を見ることによってその家具に流れ込んでいるものもあるだらうと思います。明治村の中には非常に多くの種類の建物が移築されておりますけれども、明治村の建物を見ることによってその建物に伝えられた、さらにそれ以前の建物、あるいは外国の建物の息吹という様なものが感じられるのではないかと気がしております。

明治村も四十五年の歴史を経て来て、非常に多くの建物を持つにいたしましたし、これからもできるだけ機会を捉えては建物を豊かにしていく必要があると思います。ここにある建物からそれを超えた、横に広がる世界というのを見ることが可能なのだということ、その一部をこういふ様な写真から感じとっていただければ幸いに思います。

四十五年を迎えた明治村の中から感じられる建物の広がりということで御理解いただければと思います。

\*展覧会は六月三十日で終了しました。

## 宇治山田郵便局舎 大解剖

●宇治山田郵便局舎 (4丁目46番地)



去る三月六日より、宇治山田郵便局舎のこれまで非公開だった部分の大部分が公開されました。これにより、郵便局舎の建物を多角的に楽しんでいただくだけでなく、それぞれの部屋がどのような機能を持っていたのかを充分ご理解いただけることとなりました。ここでは順を追って郵便局の魅力をご紹介します。

### 1 公衆溜

創建当時は、公衆室と呼ばれたお客様用のホールです。ここには、郵便局の窓口のほかに電信・電話の受付窓口が設置され、開放感のある吹き抜けと円形のカウンターが特徴となっています。



### 2 現業室

この部屋では、集めた郵便物の取りそろえと、日付印を押すなどの引受処理、あて先別の区分を行い、仕分けされた郵便物を郵袋に入れて郵便馬車(のち車両輸送)に乗せるまでの一連の作業を行っていました。局舎内で最も多くの人員が稼働した部屋で、大きなスペースが確保されています。



### 3 郵便発着口

発着口では、郵便物を詰めた郵袋の積み降ろしを行っていました。明治時代の運送は、二頭立てや一頭立ての「郵便馬車」が主流でしたが、明治四十年代には自動車での輸送も登場しました。発着口は、馬車や車両の荷台に合わせてあり、積み降ろし作業のしやすいよう高く設定されています。



### 4 区分室

区分室では、集配担当者が郵便物の配達区分と配達する順番に郵便物を整える「道順組立」を行っていました。実際は、区分のための専用の机や区分棚が設置さ



### 5 電話交換室

電話は、明治二十三(一八九〇)年十二月に開始され、宇治山田郵便局舎が完成したころには、全国で実施されていました。当時の電話は手動交換でしたから、電話交換室には手動交換台がいくつも設置されていました。また、操作を担当する電話交換手は、女性の花形職業の一つでした。



### 7 集配人・運送人控室

ここは、郵便物を取り集め、配達する集配人、郵便局同士をつ



### 9 切手倉庫

切手倉庫の扉は、土蔵の入口のように鉄板が張られた防火用扉となっています。さらに非常時には右手の小窓にあるフックを操作すると鉄製の防火扉を作動させることができます。倉庫壁面には耐火レンガが用いられ、内部の天井や壁は防火に配慮し、他の部屋に比べて分厚い漆喰壁となっています。また窓も切手倉庫のみ盗難防止用の網や防火シャッターが設置されています。郵便局の建物の中であって、もっとも重厚なつくりとなっているのがこの切手倉庫です。洋風の外観とは異なり、日本ならではの伝統的な蔵造りで、鉄扉のほか窓には鉄格子がはめ込まれ「倉庫が一部屋丸ごと金庫」となっています。内部は、解体前には、はしごで上り下りする二階(ロフト)部分もあり、多くの貴重資料を整理、保管できるといわれています。



## お祖父さんの思い出

四月二十五日に、先ごろまで開催していました開村四十五周年記念特別展「赤坂離宮を彩った 華麗なる宮廷家具」の開催のきっかけとなった、旧東宮御所(現赤坂離宮迎賓館)創建時の写真帖をご寄贈してくださった近藤昭さんとご家族の方々が、同展の見学にいられました。近藤さんの祖父磯五郎氏が宮内省内匠寮の技師であったことから、この写真帖を下賜されたものです。先号でもご紹介させていただきましたが、革製の帙と桐箱に入った大判のプレートで、箱裏には「東宮御所写真版 下賜 明治四十二年十二月」の墨書が遺されています。この日は近藤さんご夫妻、ご兄弟など総勢十一名でお越しになり、拡大された写真パネルを、熱心に見学されていました。



展示室で記念撮影をする近藤さんたち。前列左端 額を持っているのが近藤昭さん

写真1 旧東宮御所写真帖 写真2 桐箱の底面に記された旧蔵者の覚書

## こんにちは HELLO

## シアトルの懐かしの家

五月十七日、シアトル日系福音教会に一九三三年から四二年まで住んでいたミツエ・ヤマダ(旧姓 ヤスタケ(安武)さん)さんが、娘のジェニーさんと二人の息子さん、そして日本在住の甥夫妻や従姉妹とともに、アメリカから来村されました。博物館明治村では、二年前に弟のジョー・ヤスタケさんが来村された際に、室内の様子聞き取りをし、家具の配置を改め、往時の雰囲気気になるようにしました。ミツエさんは一九九一年以来二度目の訪問で、家具等を懐かしそうにながめながら、この家での思い出を娘さん達に話していました。ミツエさんは「アメリカに住む日系人の歴史は、アメリカ人とは異なる歴史を辿ってきました。娘や孫にそのことを伝えるためにこの家を見に来ました。」と話していました。

左 玄関で記念撮影をするミツエさんたち 右 室内を熱心に見学するミツエさん